

# 大崎町で活躍しています ✨ vol.4



きっかけは日本の歴史に魅せられて。大崎町で多文化共生に取り組むプルナワティさん(愛称プルさん)にお話を伺いました。

## ● 来日から24年目、大崎町は13年目

インドネシア・ジャカルタ出身のプルさんは、日本の歴史に興味を持ち、平成13年に留学生として来日しました。その後、鹿児島大学院で学びを深め、大崎町が母国インドネシアへ資源リサイクルの技術協力を始めると聞き、平成23年に大崎町へ移住し、令和6年度からは国際交流員として町企画政策課にて勤務しています。

## ● 大崎町の自然と温かい人々

大崎町での生活は、プルさんにとってかけがえのないものとなりました。ごみが少なく、美しい自然に心癒され、親切で温かい住民の方々に囲まれ、第二の故郷のような居心地の良さを感じています。

一方で、文化やマナーの違いに戸惑うこと

もありました。母国との違いに戸惑いながらも、前向きに学んだ経験から、日本一母国間だけでなく様々な国の文化やマナーを理解し尊重できるようになりました。

## ● 外国人と日本人の架け橋をめざして

「大崎町に住む外国人と日本人が交流を通じて、お互いに尊重し、助け合いながら、安心して暮らせる信頼関係を築き、外国人が地域の一員として活躍できる環境を作りたい」というプルさん。現在は日本語教室の支援、医療受診や行政手続きなど、生活に関する様々な悩みや不安の解決に向けたサポートや、外国人の方のコミュニティづくりに取り組んでいます。



**多文化共生サポーターを募集しています！**

興味のある方は、右の二次元コードから登録をお願いします。



問 企画政策課  
共生協働係(221)  
「きっかけは声かけから」

## 町の歩み

# 町史編さんだより vol.9

【お問い合わせ先】  
社会教育課 文化公民館係(421)

令和6年3月29日(金)の午前10時から第3回大崎町史編纂委員会を開催しました。今回は執筆における統一事項を定める内容と、章、節ごとの大まかなページの配分を決めました。

今後執筆者に依頼をする時などに、配分されたページ数の目安と執筆の約束事をあらかじめ決めておくことは大切です。

同日の午後1時30分からは、第3回調査部会も実施しました。令和5年度の調査を振り返りながら、今後の対策を話し合いました。分野によっては聞き取りをしながら確実に情報を蓄積できたところもありますが、調査を進めても情報が完全に集まりきらないところもあるようでした。

そこで、令和6年度から民間会社の力を借りて統計資料、総合計画、基本計画、記録文書、条例などから情報をさらに集めます。かつ不足する部分を調査員で追加調査をしていくことにしました。



↑ 文体や、漢字表記、ふりがな、数字表記など執筆の統一事項を定めた基本要領

大崎町史編纂委員会事務局 内村・吉原(大崎町中央公民館1階 社会教育課)  
〒899-7305 曾於郡大崎町仮宿1029番地 ☎476-1111(421・422)